



REPORT

2022

上半期ディスクロージャー誌
(令和4年4～9月)



あなたの、いちばんであるために。

山梨信用金庫



ごあいさつ

平素より、山梨信用金庫をお引き立て賜り厚く御礼申し上げます。

皆様に当金庫に対するご理解を深めていただくとともに、安心してお取引いただけますよう2022年度上半期の事業の概要・活動状況についてとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

今後も地域に根差した金融機関として、地域の皆様と当金庫との共存共生を目指して役職員一丸となって積極的に取り組んでまいります。皆様におかれましては、より一層のご理解とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2022年11月 理事長 **五味節夫**

当金庫の概要(2022年9月末現在)

本店	甲府市中央一丁目12番36号
創立	1926年11月16日
普通出資金	38億円
会員数	64,946人
常勤役職員	389名
店舗数	33店舗

～地域とともに支え合い
地域を盛り上げていく～

理事長指針

協心協働

全役職員が心をひとつに目指す姿に向かって高い志と熱い思いをもち、健康で地域ありきの行動に徹し「地域経済活性化」に寄与する

経営理念

- 一、地域を結ぶかけ橋となり、地域社会の繁栄に貢献します。
- 一、幅広い視野と変革意識を持ち、最良の金融サービスを提供します。
- 一、経営基盤を強化し、健全で安定した経営に努めます。
- 一、職員相互に高めあい、やりがいと成長を実感できる職場を創ります。

中期経営計画 4つの方針





おすすめ商品のご案内

貯める

定期積金「すまいる」
定期積金「あんしん」
定期預金
退職金定期預金
年金定期「福寿」



借りる

職域ローン
教育ローン「はぐくみ」
オートローン
フリーローン
WEB完結ローン
住宅ローン
無担保住宅ローン
リフォームローン
カードローン



備える

医療保険
がん保険
介護保険
傷害保険
火災保険
定期保険
個人向け信託商品



その他

バンキングアプリ
通帳アプリ
貸金庫
夜間金庫
しんきんカード
(クレジットカード)



資産形成

個人年金保険
個人向け国債
iDeCo
国民年金基金



詳しい情報はこちらからも
ご覧いただけます！



SDGsへの取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際社会全体の開発目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

当金庫は、地域の協同組織金融機関としてSDGsを金庫の活動と結び付け、地域の創生および持続可能な社会の実現に向け、努めてまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



上半期の主な取り組み内容

●インターンシップの受入れ

学生の社会的自立や意欲的な社会参加を支援する取り組みとして、インターンシップの受入れを行いました。



●「山梨信用金庫脱炭素化宣言」の公表

当金庫の脱炭素化の計画的な実行と、地域社会・お客さまの脱炭素化への取り組みの推進を目的として宣言いたしました。



●女性管理職の登用

女性活躍推進の一環として、2022年4月より、当金庫初となる女性支店長を3名登用しております。



●SDGs推進に向けた山梨県との連携協定の締結について

県内企業の皆さまの持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを支援するため、「やまなしSDGs推進プラットフォーム」へ参加しました。



●出資証券のペーパーレス化

出資証券をペーパーレス化（不発行）とし、当金庫の会員名簿により電子的に一元管理することとなりました。



●「認定NPO法人フードバンク山梨」への寄付

地域貢献活動の一環として、認定NPO法人フードバンク山梨による食糧支援に向けた山梨フードバンクセンター建設プロジェクトの趣旨に賛同し、寄付を行いました。



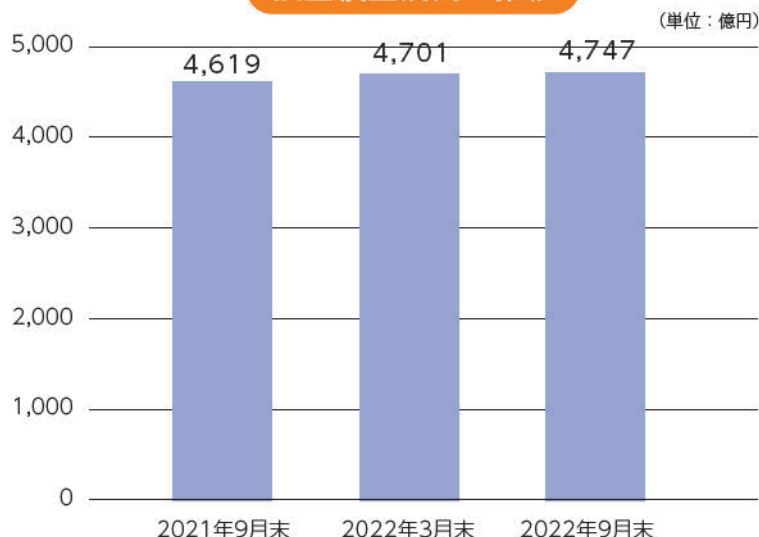
2022年度上半期における事業の概況

預金積金残高・ 人格別内訳の状況

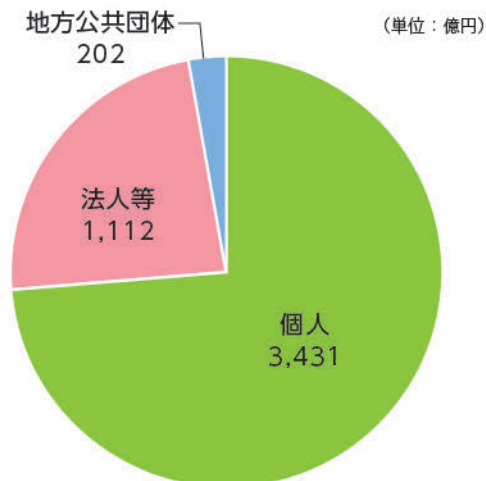
預金積金は、個人のお客様から3,431億円、法人等のお客様から1,112億円、地方公共団体から202億円をお預入れいただいております。前年同期比127億円増加の4,747億円となりました。

引き続き、新商品やサービスの充実を通じて、地域のお客さまからのご信頼、ご支持をいただけるよう努めてまいります。

預金積金残高の推移



人格別構成比

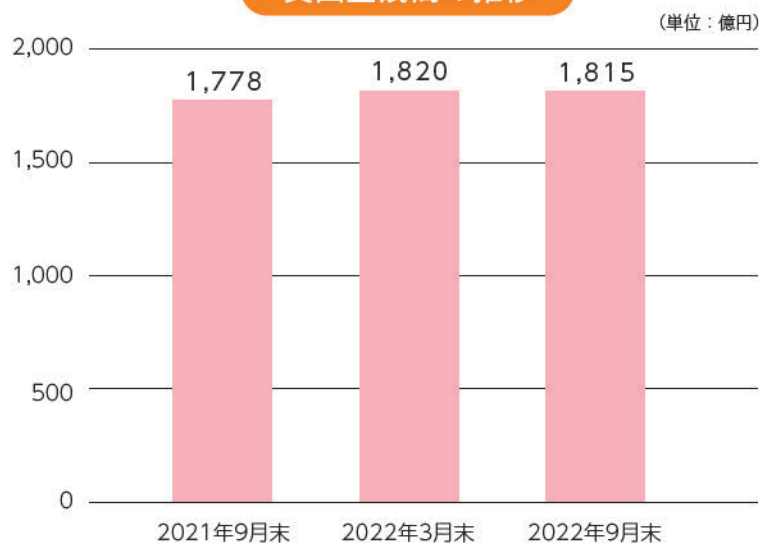


貸出金残高・ 業種別内訳の状況

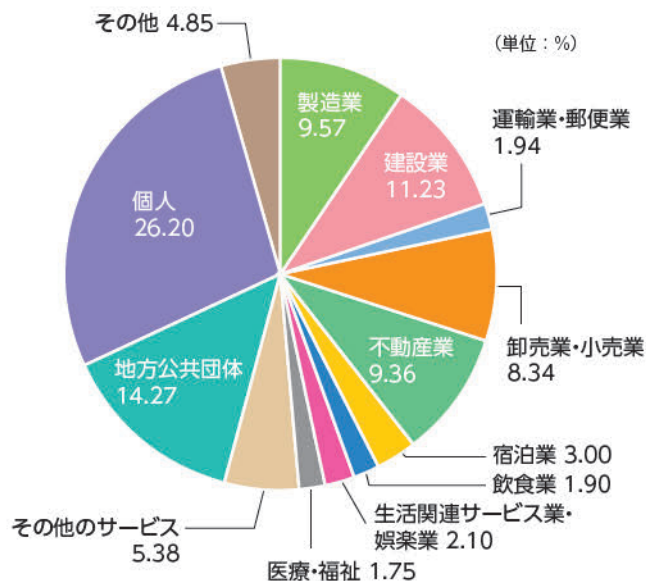
貸出金残高は、新型コロナウイルスにより売上の減少や資金繰りの悪化等の影響を受けている事業先への支援や、個人ローンの推進、融資先数増強を意識した営業活動を行った結果、前年同期比37億円増加の1,815億円となりました。

貸出金の業種別残高の構成では個人のお客様へのご融資が最も多くなっておりますが、特定の業種に偏ることなく、様々な業種のお客さまからご利用いただいております。

貸出金残高の推移



業種別構成比



※図表中の金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。以下の各図表における金額についても同様です。

損益の 状況

最終利益である当期純利益は、前年同期比 5 百万円減少の 705 百万円となりました。経常収益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた事業先への低金利の資金繰り支援等を背景に、貸出金利息が減少したこと等により、同比 96 百万円減少の 2,774 百万円となりました。

経常費用は、同比 84 百万円減少の 2,056 百万円となりました。

この結果、経常利益は、717 百万円、本業の収益力を示すコア業務純益は 417 百万円を計上しております。

損益の内訳

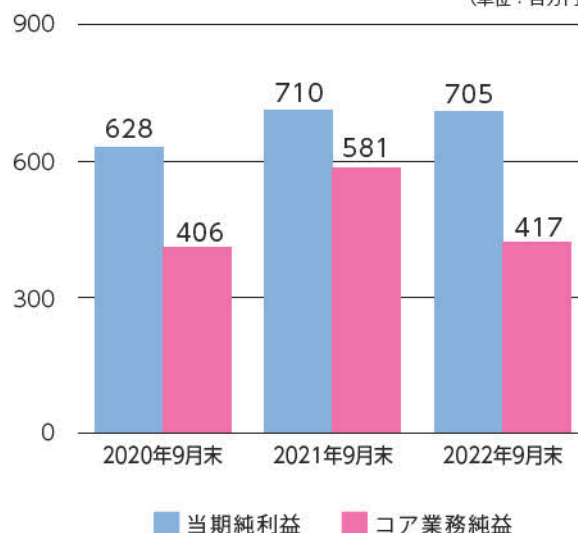
(単位：百万円)

	2020年9月末	2021年9月末	2022年9月末
経常収益	2,905	2,870	2,774
うち貸出金利息	1,687	1,651	1,643
うち余資運用収益	596	673	526
うち役務取引収益	281	268	253
うち貸倒引当金戻入益	159	31	45
経常費用	2,258	2,141	2,056
うち預金利息等	34	27	26
うち役務取引費用	221	222	211
うち経費	1,904	1,804	1,756
経常利益	647	729	717
コア業務純益	406	581	417
特別損益・税金等	▲18	▲18	▲12
当期純利益	628	710	705

(注) 余資運用収益：預け金利息、有価証券利息配当金、国債等債券売却益、国債等債券償還益、株式等売却益の合計額

当期純利益・コア業務純益の推移

(単位：百万円)



有価証券の 状況

当金庫は、お預りしている資金のうち、貸出金で運用している以外の余裕資金については、その一部を有価証券に投資しております。

また、お客様からお預りした資金を安全に運用することに留意し、公共債・国内社債を中心とした運用を行っております。

有価証券評価損益の状況

(単位：百万円)

その他保有目的	2022年3月末			2022年9月末		
	貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
債 券	81,660	82,146	△ 485	80,604	82,446	△ 1,841
株 式	1,514	1,584	△ 69	1,665	1,734	△ 68
そ の 他	15,354	16,412	△ 1,058	14,628	16,712	△ 2,084
合 計	98,528	100,142	△ 1,614	96,898	100,892	△ 3,994

満期保有目的	2022年3月末			2022年9月末		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	10,121	10,191	△ 70	9,111	9,131	△ 19
そ の 他	200	198	1	200	197	2
合 計	10,321	10,390	△ 68	9,311	9,328	△ 16

(注) 1. 「その他」は外国証券及び投資信託等です。

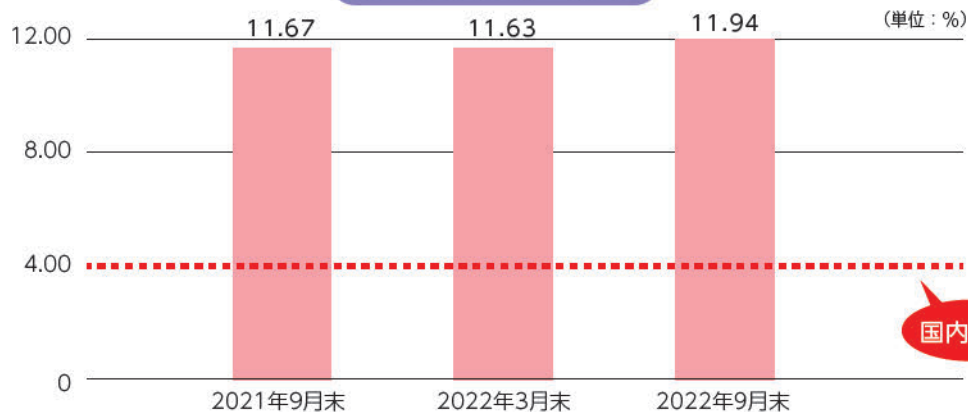
2. 市場価格のない株式等及び組合出資金は本表には含めておりません。

自己資本比率の状況

自己資本比率は、金融機関の経営の健全性・安全性を表す重要な指標のひとつです。当金庫の自己資本比率は、前年同期比0.27ポイント上昇の11.94%となりました。また、健全性の目安とされる国内基準4%を大きく上回っております。

今後とも経営の健全性を維持していくため、収益力の強化に努めるとともに自己資本の充実を図ってまいります。

自己資本比率の推移



国内基準の4%を十分に上回っています。

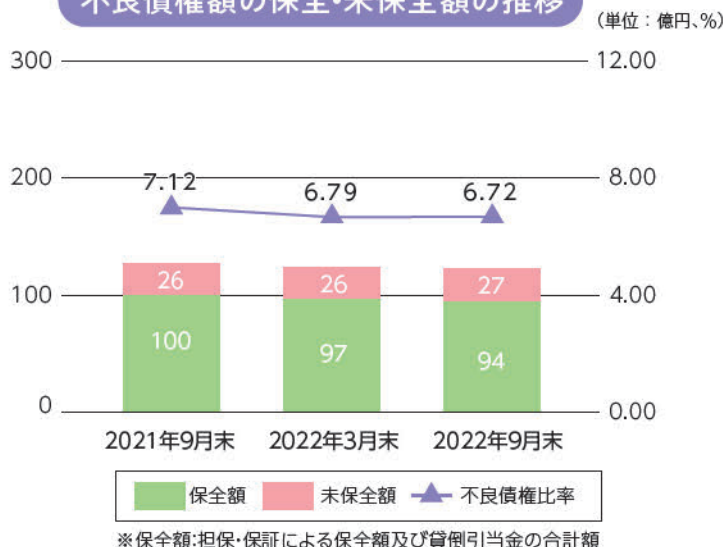


不良債権の状況

不良債権額は122億円となり、前年同期比4億円減少しました。この結果、不良債権比率は同比0.40ポイント改善の6.72%となっております。また、これら不良債権に対する担保・保証ならびに貸倒引当金による保全率は77.35%となっております。

今後もお取引先の経営改善・再生支援に努めるとともに、不良債権処理を進め資産の一層の健全化を図ってまいります。

不良債権額の保全・未保全額の推移



債権区分の内訳と推移

(単位: 億円、%)

区分	2021年9月末	2022年3月末	2022年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	55	51	48
危険債権	67	65	68
要管理債権	4	6	5
三月以上延滞債権	0	0	0
貸出条件緩和債権	4	6	5
不良債権額 (A)	127	124	122
正常債権	1,658	1,702	1,699
合 計 (B)	1,785	1,827	1,822
不良債権比率 (A)÷(B)	7.12	6.79	6.72
保全額 (C)	100	97	94
保全率 (C)÷(A)	79.13	78.49	77.35

◇用語解説

【破産更生債権及びこれらに準ずる債権】破産、会社更生、民事再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。

【危険債権】債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。

【要管理債権】「三月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。

【三月以上延滞債権】元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に該当しない貸出金です。

【貸出条件緩和債権】債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「三月以上延滞債権」に該当しない貸出金です。

【正常債権】債務者の財務状態及び経営成績に特に問題のない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。



山梨信用金庫

〒400-0032 甲府市中央1-12-36 <https://www.yamasin.jp/>

お問い合わせは

経営企画部 TEL: 055(225)0213



特殊詐欺にはご注意ください！